

陳 情 文 書 表

受 理 番 号	陳 情 第 2 0 号
件 名	「水と土の芸術祭」について
要 旨	<p>来年度計画されている水と土の芸術祭には多くの疑問を感じております。なぜ、来年度なのか。平成 21 年度には、新潟国体を初めさまざまなイベントが予定されています。その上さらに芸術祭をやらなくてはならないのか。もしやるとしても招聘作家には新潟の四季を体験してもらい、新潟の風土と文化を理解してもらった上で制作してもらう必要があるのではないのでしょうか。またこのような予算規模でやるならば、二、三年の準備期間を設けるべきではないのでしょうか。</p> <p>なぜ、現代美術なのか。芸術には多くのジャンルがあります。音楽、演劇、文学、写真、舞踊などなど。しかし、他の芸術を検討した形跡が全くありません。今回の手法は、十日町市の「大地の芸術祭」を踏襲したもので、全くの二番せじであり、独創性がありません。かつてバブルのころ、日本国中で現代アートを中心としたパブリックアート（ランドアート）が設置されました。そのパブリックアート（ランドアート）が 10 年の時を経て今どのようになっているかと言え、その多くが厄介者です。それは、その土地の風土や伝統を軽んじたものだったからです。そのバブルのころのやり方を、なぜ、今新潟市で繰り返さなくてはならないのか、全く理解できません。</p> <p>平成 20 年 8 月 2 日の新潟市主催の対話集会、8 月 24 日の市民グループ主催の集いの会、そして「おとなの放課後会議」を通して、参加者の賛同意見の多くは「地域の魅力の発信」に関してであり、「ランドアート」に賛同する意見はほとんどなく、逆に批判的な意見が多数ありました。私たちは「地域の魅力の発信」を高く評価していますが、現代美術（ランドアート）に関しては全面的に見直すべきであると考えています。</p> <p style="text-align: right;">（裏面につづく）</p>
付 託 年月日 委員会	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: space-between;"> <div style="text-align: center;">             第 1 項 ~ 第 3 項           </div> <div style="font-size: 3em; margin: 0 10px;">}</div> <div style="text-align: center;">             総務常任委員会           </div> </div>
受 理	平成 2 0 年 9 月 1 0 日 第 1 0 8 5 号

新潟には多くの芸術家や芸術家の卵，そして芸術に興味を持つ人がたくさんいます。そのような人たちを蚊帳の外に置いて，特定の個人に企画をすべてゆだね，外部招聘者たちの作品に多くの予算を配分することは本末転倒ではないでしょうか。今回のテーマを考えても市民に身近であり，また，文化振興をうたうならば，市民が最初の企画の段階から参加し，市民の側により多くの予算を配分してしかるべきではないでしょうか。

言うまでもなく新潟市の伝統や文化は，新潟市民が何百年という長い時間をかけて育ててきた新潟市民のものです。その伝統や文化を，過去，現在を踏まえ，新しい未来の伝統，文化として子供たちに伝えていく義務が私たちにあります。その作業をお祭りといった一過性のものでなく，長期的，継続的な展望のもとに行っていく必要があると考えています。

以上のことから，下記の事項について陳情します。

#### 記

- 1 来年度（平成 21 年度）の実施を見送り，延期すること。
- 2 現代美術（ランドアート）案は撤回し，見直しをすること。
- 3 最初の企画原案の立案から市民が幅広く参加し，市民のための芸術祭にするためにやり直すこと。